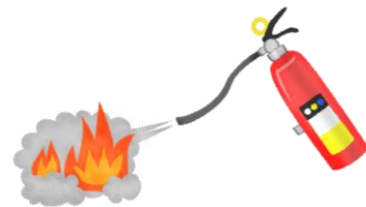


文化財防火デー



湯浅は重伝建地区に選定され 17 年が経ちました。その間、伝建地区内で一件の火災があり重要な建物が消失しました。現在高齢化が進む社会と建造物群の老朽化で特に地震、津波による被害対策も大切です。人命に関わることも考えられ、もう一度日頃から注意してこの町の文化と建物を守り抜く注意力を高める必要があります。

3 年前からのコロナ禍の中で、密になり集団での防災訓練ができない年が続きますが、安全になり次第訓練を再開したいと思います。

これから寒さも増し暖を取る機会が多くなり火災に繋がることも考えられます。みんなでこの大切な湯浅の文化を消失させないために日頃の注意をお願い致します。

重要伝統的建造物群保存地区
4 地区自主防災連絡協議会 半邊宗五



毎年1月26日は
全国一斉の文化財防火デーです

～ 湯浅の歴史 ～ 第五回

湯浅党の崩壊

鎌倉時代も御家人として活躍していた湯浅党であったが、150年続いた鎌倉幕府も滅亡し、南北朝時代へと入り、湯浅党は南朝方として北朝と戦うことになります。湯浅党は後村上天皇の皇孫、義有王をかくまい戦ったが1447年、300年以上続いた湯浅党は滅び九死に一生を得た武士たちは全国各地に離散、それぞれに活躍、中には世界的に有名な企業にまで。今は全国に12,000軒程の湯浅姓の方々がおり交流が続いています。湯浅は室町時代までは城下町であったが、戦いに敗れ以後漁業、商工業を中心とする街づくりが始まりました。

湯浅伝建地区保存協議会

皆様に瓦版をより身近に感じてもらうために、まちなみ瓦版の記事を募集しています！ご意見・ご要望などございましたら、右記のまちなみ瓦版編集委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五
妻木 良三
楠山 吉雄
油谷 太一
竹田 滋子



まちなみ瓦版

■令和 5年 1月 1日
■第 66 号
■発行：湯浅伝建地区保存協議会
■発行責任者：加納 芳明

謹賀新年



新年、あけましておめでとうございます。本年も、昨年と同様、伝建地区保存協議会活動に、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

振り返ってみますと、2006年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以来17年の間に建物の修復が進み、町の景観は大きく変貌し、たくさんの観光客に来てもらえるようになりました。昨年11月には、旧栖原家住宅（醤油醸造家）の修復が完了しました。主屋は太い柱や梁が広い空間を支え、漆喰の壁、広い土間など重厚な雰囲気をもつ見ごたえのある大型施設です。トイレも併設され、当地区の大きな拠点となることが期待されます。

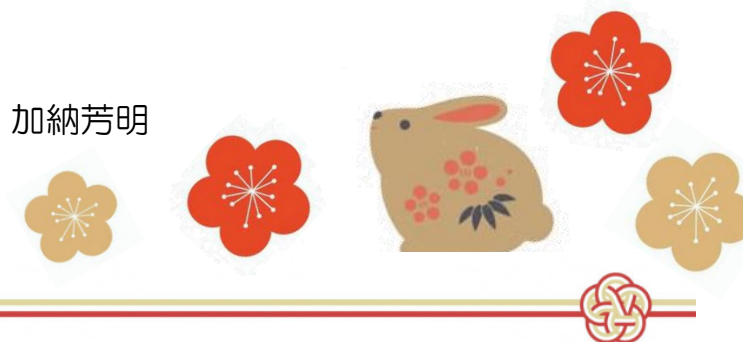
また12月には旧橋野畳店の跡地にトイレ設備を備えた駐車場（10台）がオープンし、見学者の利便性は大きく向上しました。このように施設の充実とともに、「角長（加納家住宅）」が国の重要文化財（建造物）に指定されました。これは創建時（1841年）の仕込蔵や醤油蔵などが現在でも当時のまま稼働していることが高く評価されたものです。

また、NPO 湯浅まちなみの会に引き継がれた「湯浅まちなみひなめぐり」などのイベント活動や、「語り部」さんによる活動は、当保存地区が名実ともに発展していくことを支えています。

今年の課題は、町並みの景観・住環境の保全・向上を図ることにあります。昨年4地区合同で地区清掃を実施しましたが、定期的に継続していく必要があります。また足下に目をやれば側溝の鉄板やアスファルトやセメントの剥がれなど道路の随所に不具合があり、美観を損ねています。懸案の課題でもあり、行政と地域住民との協議の場をもち、早急に対策しなければなりません。また協議会の運営についても、地域住民のご意見をもっと広く集められるように役員の拡充、部会の活性化を図らねばなりません。皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年が皆様方にとっていい年になりますように祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

湯浅伝建地区保存協議会 会長 加納芳明



旧栖原家住宅が オープンしました

旧栖原家住宅が、11月12日（土）オープンしました。オープニングセレモニーには、元の所有者である栖原佳子さんご家族をはじめ関係者が参加しました。



建物や民具を寄贈した栖原さんと、旧栖原家の修理を施工した株式会社平林組に町から感謝状が贈られ、最後にテープカットを行いました。オープン後には、観光客だけでなく、地元の方々も多く来館しました。栖原さんは、昔の姿を残した部屋を見て、ご家族と懐かしいと思い出話をされて喜んでいました。

スタッフの紹介

旧栖原家住宅には、教育委員会で採用された3人のスタッフが勤務し、岡正・来訪者用駐車場の管理も行っています。

主な仕事内容は、施設の開閉・清掃・所蔵品の整理・来館者への説明や案内です。

皆さん、お気軽にご来館ください。お待ちしております。



木下さん



田宮さん



中山さん

まちなみの駅 完成式典が行われました

和歌山県が整備する「まちなみの駅湯浅」の工事が終了し、12月1日（木）完成式典が行われました。式典には、地元地区から保存協議会会長らが出席し、関係者がテープカットを行い、完成を祝いました。

まちなみの駅湯浅は、町並みを散策する人の利便性を考慮し、道路利用者の休憩のための駐車場と公衆用便所を設置する休憩施設です。



役場からのお知らせ

12月2日から、火災により焼失した歴史的建造物である、旧橋野家住宅主屋の新築修景工事を行っています。この施設は、まちなみの駅湯浅の敷地内で、駐車場利用者の休憩や、パネル等による情報発信等をする施設となります。

皆様には引き続きご迷惑をおかけしますが、ご理解の程、よろしくお願いいたします。



報告

「第7回作事組全国協議会2022八女福島シンポジウム」
& 「第8回まちなみフォーラム福岡」に参加して

教育委員会 歴史文化財係 中原 七菜子

私は10月22・23日に、福岡県八女市で行われたシンポジウムへ参加しました。八女福島伝建地区は、江戸時代に作られた地割が特徴の城下町で、土蔵造りの立派な町家が多く建ち並ぶ、迫力のある伝建地区です。

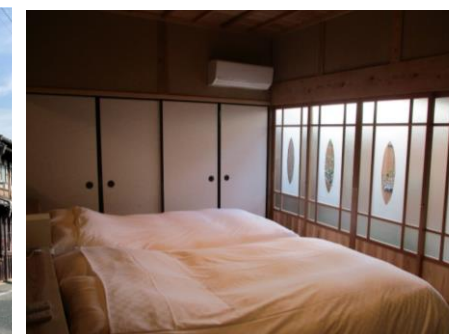
八女福島も湯浅同様に、空き家の増加や少子高齢化が課題でしたが、NPO 団体が空き家を取得・修理を行い、活用を進めていく仕組みができており、八女福島は飲食店やホテル、雑貨屋などの店が年々増えています。今回のシンポジウムでは、まちづくりを進めるNPO 団体や店の経営者からも話を聞くことができました。

まちづくりには、行政ではできないこと、住民だからこそできることがあり、それぞれ協力しながら、町のためにできることを模索していくのが必要で、湯浅ではどんなことができるだろうかと考えた2日間でした。

2日目の八女市黒木伝建地区は、樹齢800年の大きな樟や大藤、鯉が泳ぐ水路など、建物以外にも見どころが多くありました。



八女福島の町並み



空き家を活用した宿泊施設



黒木伝建地区